

七ヶ用水の父



えだごんべえ
枝権兵衛 (1809~1880)

枝権兵衛は、1809年（文化6）石川郡坂尻村（白山市坂尻町）に生まれました。枝家は、菜種油なたねの生産販売や石炭・米・材木を売買するなど商業も行う有力農家でした。権兵衛と富樫用水とがしのかかわりは、1858年（安政5）あんせいに取水口の修理責任者となったことが始まりです。

富樫用水は、かつすい 湯水期には減水しげんすい 洪水の時には破損するなど不安定な設備でした。このため権兵衛は、安定した水量の確保が必要と考え、また、用水を利用して、船で物資を流通する構想ももち、この舟運計画しゅううんに興味を抱いた加賀藩が協力することになりました。

権兵衛と藩産物方さんぶつかたの小山良左衛門こやまりょうざ えもんは、手取川からの取水口を上流の安久湊淵あくとがふちに選び、岩盤をくり抜きトンネルを掘削する工事を実施しました。労働力は用水流域の村々が人員を出し、工事費は藩からの助成金と、村々から集めた資金あを充てました。

権兵衛も私財を投じたトンネル掘削工事は相当の難工事で、1865年から1869年（慶応元~明治2）けいおう にかけて4年もの歳月を費やしました。その分、完成した取水口は非常に堅牢けんろうで、1896年（明治29）手取川の大洪水の際、川筋の取水口のほとんどが全壊したなかで、この取水口だけは何事もなかったそうです。

1903年（明治36）石川県は、権兵衛の作った取水口やトンネルを大改修して七ヶ用水取水口を建設しました。100年以上経った取水口は、今も現役として各用水ただに水を湛えています。

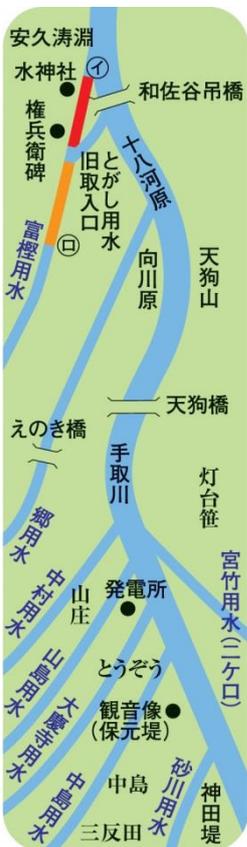


取水口

あくとがふち
安久湊淵



現在の富樫用水（上林）



イから口までの

- 部に隧道、
- 部に運河を

明治 36 年以前
の七ヶ用水の取
水口



明治 36 年 4 月完
成の合同取水口と
七ヶ用水